

かほく

# ワークシート

問題

- ①加藤さんが落語に興味を持ったきっかけは、どんなことでしょうか。
- ②大賞受賞を目指している落語大会の名前は何か。

(小学校高学年／朝の会・志教育)

## 盲目落語少年 夢は学生大賞

### 18歳茨城の大学に進学

目が見えないハンディキャップを背負い、新潟県で高座に上がった「落語少年」の加藤健太郎さん(18)がこの春、県立新潟盲学校高等部を卒業し、茨城の国立大に進んだ。鍼灸などを学ぶ傍ら、学生落語選手権の大賞獲得が新たな夢だ。離郷前の3月、感謝の気持ちを胸に、初の自主公演となる独演会を地元の新潟県燕市で行った。



大学進学を前に、独演会で落語を披露する加藤さん＝3月24日、新潟県燕市

「『あの網の所にいる人を見なさい』とおばちゃん。ゴールキーパーのことです。『あの人は暇げだねえ』」。3月24日、約100人を集めた独演会で、加藤さんがサッカーを初観戦する地元の中年女性の勘違いを描写すると、笑いが起こった。夫婦を描く演目「芝浜」で、夫が妻に「人に感謝されたとき、お礼を言うときほど、うれしいときはない」と言う創作のせりふを加え、支えてくれた人に感謝を表した。

### 「人生 楽しんだもの勝ち」

出生時から目が見えない。盲学校小学部1年時、テレビで聞いた古典「皿屋敷」に魅了され落語に没頭。「笑ってもらおうのが最高の楽しみになった」と語る。4年生で師匠についた。「たら福亭美豚」の芸名で高齢者施設、公民館などで演じ、子ども落語の全国大会で賞も取った。持ちネタは約170を数える。進学先の筑波技術大(茨城県つくば市)では1人暮らし。不安はあるが、演芸場のある東京・浅草には近くなった。生の落語を聞く機会を増やすのが楽しみだ。学業優先の上、全日本学生落語選手権「策伝大賞」に出て大賞を狙うつもりだ。

ハンディに悩んでも友人や落語仲間にも困まれ「明るくいられた」という。「もし目が見えたら、と考えてもしようがない。人生、楽しんだもの勝ちだから」。現在、プロを目指す予定はないが、茨城でも落語会を開きたいと考えている。

支えてくれる人々への感謝の気持ちを表していることも素晴らしいですね。  
(日本新聞協会NIEアドバイザー・宮城県図書館 坂本謙)

出題者から

目が見えないハンディキャップがあっても、高い目標を持って落語に取り組む姿勢には心を打たれます。人々をただ笑わせて楽しませるだけでなく、創作のせりふを入れて、

5月13日付「かほくワークシート」の模範解答

- ① 加藤さんが落語に興味を持ったきっかけは、どんなことでしょうか。  
盲学校小学部1年時、テレビで聞いた古典「皿屋敷」に魅了されたこと
  
- ② 大賞受賞を目指している落語大会の名前は何でしょうか。  
全日本学生落語選手権「策伝大賞」